

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成21年9月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070001203		
法人名	社会福祉法人 マルミ会		
事業所名	マルミ苑 グループホーム		
所在地	〒824-0216 福岡県京都郡みやこ町犀川谷口425番地 (電話 0930-42-0117)		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成21年9月17日	評価確定日	平成 21年 10月 7日

【情報提供票より】(平成21年8月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 6 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 10、3 人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	水・光熱費5,000~8,000 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日当たり 1,000円		

### (4) 利用者の概要(平成21年8月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	5 名		
年齢	平均 86.9 歳	最低	75 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉永病院 / 吉永歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

たわわに実った稲穂が広がり、日本の原風景を見るような風光明媚ななかに、マルミ苑がある。広い敷地内は、地域の方々が苗から育てたコスモスの花が咲き、季節を感じる。また、さわやかな自然の風が吹き抜ける居間は、利用者と職員の笑顔があり、季節を五感で感じる飾り付けや、そのそばには理念が大きく掲げられている。「喜びと安らぎと思いやり」「心あたたまる共同生活」「地域社会とのふれあい」という理念にそって、全職員が一丸となって日々研鑽している。安易にオムツ使用をしないようにと、声掛けの回数を増やす工夫もしている。利用の希望により、洗濯物を干したり、料理を手伝ったり、職員との楽しそうな会話が生きがいへと繋がっている。また、提携医と24時間対応出来る体制をとり、健康管理も万全で家族の信頼も厚いグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善課題は2件あり、管理者と職員が、一丸となって努力された結果、一件は改善されている。「家族からホ-ムの運営に関することの要望」は今後も努力されることが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、会議の中で職員が意見を出し合い、ユニットごとにまとめて作成している。管理者や職員は、評価の意義を理解し、評価結果を全員で回覧し、改善に向けて努力している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、苑の行事や外部評価の結果報告をし、参加者から質疑応答や要望が出され、会議で出された意見を苑のサービスの向上に反映している。また、利用者の食事内容の試食会等も行っている。参加者は家族、区長、民生委員、包括支援センター職員、ホームスタッフ等である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来苑時に、利用者の状態を説明し、介護計画への苦情や要望を話し合っている。苑の介護サービスに対する熱意や取り組みを理解してもらっている。また、家族だけで話合える家族会を発足し、気軽に意見や要望を出してもらい、ホ-ムの運営を円滑にしていけることが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者と職員は、地域の行事、町や社協主催の清掃、草取り、リサイクルのゴミ収集等に参加し、地域の方々のボランティアによる苑内の畑にコスモスの苗植えや実習生の受け入れ等、活発に地域交流を行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「喜びと安らぎと思いやり」「心あたたまる共同生活」「地域社会とのふれあい」を理念に掲げ、住みなれた地域の中で、その人らしく穏やかに暮らせるようホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を毎朝一緒に唱和し、良く理解し合い、全員で共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、月2回不動様の清掃、リサイクルごみ収集、草刈り等に利用者職員と一緒に参加している。また、苑の畑のコスモスの苗植えや、実習生の受け入れ等、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の外部評価受審を、苑全体の改善の機会ととらえて、自己評価を作成し、評価結果を全員で回覧し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、ホームの現状報告、外部評価結果等を報告し、参加者からは、意見や質問が出され、有意義な意見交換の場となっている。参加者は、家族、区長、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員、苑の管理者、職員等である。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には積極的に向き、委託や協力の意志を伝え、行事にも参加協力している。地域で認知症の理解を深めるよう、行政に協力する旨伝えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修会にも参加し、必要な利用者には活用できるように資料やパンフレットを揃え、いつでも説明出来る体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来苑時に利用者の状況報告や要望を話し合い、来苑できない家族にはホーム便りや記念写真と一緒に近況報告をしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の連絡先を掲示し、玄関に意見箱を設置している。家族の来苑時に要望や苦情等を聴くようにしているが、家族から運営に関する苦情はない。		家族だけで話し合える家族会を結成し、介護サービスや苑の運営に関心を持ってもらい、積極的な意見や苦情を出してもらい、苑の運営に反映される体制作りが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を第一に、利用者や職員の信頼関係が保たれるように配慮している。職員の異動や離職を最小限に抑えるために、働きやすい職場環境作りを目指している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は年齢、性別に制限はなく、思いやりのある心優しい人材を重視し、採用している。能力が発揮できる環境作りとスキルアップ研修も実施している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	職員は利用者を思いやり、経験豊かな人生の先輩として接するよう、職員間で話し合っている。人権教育、啓発活動の取り組みも行っている。今後の課題としては記録を残す工夫を考えている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度始めに研修計画を立て、職員の習熟度や経験年数に応じて、外部の研修に参加してもらい、介護サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月1回地域のグル-プホーム協議会の会議に参加し、情報や意見を交換し、地域全体でグル-プホームのサービスの質の向上を目指している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、3日間の体験入居を経験し、職員と利用者の馴染みの関係を作り、利用者と家族の納得の上で入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は共に過す時間を多くし、心配したり、されたりの関係で、家族のような気持ちで支え合い日々を過している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を把握し、意向に添った対応をしている。意志伝達の苦手な利用者は家族に相談したり、利用者の生活歴などを参考に本人本位の支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成は、利用者、家族の意見を取り入れ、主治医、職員、関係者で話し合い、利用者本位のより良い暮らしが出来る介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～4ヶ月ごとに介護計画の見直しを行う。利用者の状態に変化があれば、その都度家族に連絡し、相談してカンファレンスを行い、介護計画の見直し実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊、通院介助、入院見舞い等利用者、家族の要望に添えるように、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みのかかりつけ医を優先している。利用者、家族の希望があれば、ホームの医療機関に受診もできるよう配慮している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りについては、契約時に説明し同意を得ている。重度化、終末期の方針は利用者、家族、医療機関と話し合いの上対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、記録の漏洩防止に細心の注意を払い、利用者の誇りやプライバシーにも配慮し、利用者の尊厳を大切に対応している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の一日の流れはあるが、利用者の意志と健康状態に配慮した上で、できるだけ自由に、利用者の希望に添えるように援助している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望により、準備、配膳、下膳、お盆拭き等、職員と共にしている。日々の献立も管理栄養士にアドバイスを受けている。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴時間には、ゆとりをもって対応している。年1回温泉旅行も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の身体能力、生活歴など考慮し、利用者の希望する役割を見つけて楽しみ、気晴らしの援助をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って、買い物、外出、外泊、ドライブ等戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解し、夜間以外は開放し、広い敷地内は自由に出入り出来る状態である。職員は、利用者の癖や行動パターンを把握し、見守りの支援をしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、区の消防団の協力で昼間、夜間を想定して避難訓練を実施している。災害に備えて飲料水、非常食、毛布など備蓄している。		
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の1日に必要な水分、食事の摂取量を把握し、バランス良く、食べやすい調理方法で無理のないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節の花や利用者の作品を飾り、木の温もりが感じられる家庭的空間になっている。不快な音や光にも配慮している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の馴染みの家具や日用品が使われ、利用者の趣味に合った飾り付けができています。自分らしい部屋であり、居心地の良い居室に工夫されている。		